

## 年間指導計画表

教科・科目	家庭科・家庭基礎	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科・第1学年

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①人の一生と家族及び福祉、衣食住や、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ②家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上をはかる能力と実践力を育成する。 ③言語活動を通して思考・判断力やコミュニケーション能力を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書:実教出版「新家庭基礎 パートナーシップでつくる未来」 副教材:第一学習社「生活ハンドブック」

## 2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	人の一生と家族及び福祉、衣食住や、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	提出物(記入内容や分量等) 出席状況 授業観察	20%
b. 思考・判断・表現	学習した内容を理解したうえで、自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのようなことができるのかを思考し、判断した内容をレポート等でまとめることができる。	提出物 発表 定期考査	20%
c. 技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	実技テスト 提出物 発表	20%
d. 知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。	定期考査 実技テスト 提出物	40%

## 3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	1	家庭科を学ぶにあたって	・家庭科を学ぶ目的、何を学習するかを理解する。				
	5	7	1編 人と関わって生きる 1章自分らしい生き方と家族	・自分自身について客観的に知り、生涯を見通して人の一生について考え、それぞれのライフステージごとの特徴・課題を理解する。 ・家族・家庭の意義と基礎的な法律について現代の社会の動きも交えながら学習し、理解する。 ・男女共同参画社会の実現をめざし、男女がどのように協力すればよいか、その課題について考える。	○	○		○
	6	7	3編 消費者として自立する 1章 消費行動を考える 1章 消費行動を考える 2章 経済的に自立する	・経済的自立と職業について主体的に考える必要性を認識する。 ・契約や消費者信用、多重債務と関連する法律や制度を理解し、自立した消費者として適切に判断できるようにする。 ・現代の経済環境と、消費者の権利と責任について理解し、資源や環境に配慮できる消費者として行動できるようにする。	○	○	○	○
	1	1	1編 人と関わって生きる 4章 社会とかわる ☆外部講師による講演会	・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 ・一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知り、社会保障制度の理念を理解する。	○			○
		4	2編 生活をつくる 1章 食生活を作る(前半) 食中毒予防(DVD) 調理教室の使い方 ☆第1回調理実習 ○第1回定期テスト	・調理実習に向け食中毒にはどのような種類があるかを知り、細菌汚染を防ぐため、食品の取り扱い、手の清潔、台所や調理器具の衛生などの面での注意事項について学ぶ。	○		○	○
【第1回の評価方法】 定期テスト、授業プリント等の提出物、授業への取り組み状況を総合的に判断して評価する。								

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期後半 (第2回)	6	4	1章 食生活を作る(前半) 私たちの食生活 ☆第2回調理実習 ○調理実技テスト	・自分の食生活を振り返り、健康で安全な食生活を営むにはどうしたらよいか考える。 ・安全で衛生的な調理の基礎技術を身につける。	○	○	○	○
	7	5	夏課題 (学習から実践へ) ホームプロジェクト オリジナル新聞の作成 絵本の作成 等から選択 夏課題の発表	・生活の中から課題を見だし、その解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにする。 ・日常生活で疑問に感じていた新聞の切り抜きを集め、自分なりにどうしたらよいか解決法を考える。 ・子どもの発達に応じた仕掛け絵本を作成することができる。 ・相手にわかりやすく自分の意見を伝えることができるようになる。	○	○	○	○
	9	7	2章 衣生活をつくる (被服の機能・制服の表示調べ・衣生活の管理) ☆被服実習「小物製作」準備、実技テスト練習	・被服の機能と着装、被服材料、被服管理などに関する知識と技術を習得し、衣生活を健康で快適に営むことができるようになる。 ・基礎的な裁縫技術を身に付け、自分なりに工夫して小物製作を何を製作するか考える。	○	○	○	○
	【第2回の評価方法】 定期テスト、実技テスト、夏課題、授業プリント等の提出物、授業への取り組み状況を総合的に判断して評価する。							
後期前半 (第3回)	10	5	6章 装う ☆被服実習「小物製作」 ○被服実技テスト (基礎縫い)	・基礎的な裁縫技術を身に付け、自分なりに工夫して小物が製作できる。	○	○	○	○
	11	7	1編 人と関わって生きる 2章 子どもとかかわる 子どもの発達(DVD) 親の役割(幼児食の試食) 子育て支援と福祉 ☆基町幼稚園訪問実習	・乳幼児と直接ふれあい、乳幼児期における子どもの心身の発達について理解する。 ・子どもの健全な発達のために、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを理解するとともに、少子社会のもとで、地域や社会の果たす役割について考える。	○	○	○	○
	4	4	2編 生活をつくる 1章 食生活を作る(後半) ☆第3回調理実習	・日常的な食品の栄養的特質と調理上の性質を科学的に理解して、調理できる。 ・日本料理の盛りつけと配膳ができるようになる。	○	○	○	○
【第3回の評価方法】 定期テスト、実技テスト、小物作品、授業プリント等の提出物、授業への取り組み状況を総合的に判断して評価する。								
後期前半 (第4回)	1	10	食生活を取り巻く環境の変化(食糧自給率) 食生活の安全のために(食品添加物・表示の見方) 食生活をデザインする(食事摂取基準、食品群別摂取量のめやす) ☆第4回調理実習 ☆市販弁当の検討 ☆第5回調理実習	・食品の表示の見方、選び方を理解する。 ・自分の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安量ができる。 ・栄養・嗜好・味わい・予算・調理時間などを考えて合理的に献立が作成、実践できるようになる。 日本の食糧自給率低下など実情を知り、無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考え、実践する。	○	○	○	○
	2	4	3章 住生活をつくる (住居の機能と間取り、環境に配慮した住まい、住まいの健康と安全) ☆住居設計実習	住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などについて科学的に理解し、住生活を健康で快適に営むことができるようになる。	○	○	○	○
	4	4	1編 人とかかわって生きる 3章 高齢者とかかわる ○第4回定期テスト	・高齢者の心身の特徴と、高齢者の福祉について理解する。 ・高齢者の自立生活を支えるために必要な家族や地域・社会の果たす役割について認識する。	○			○
	2	2	3編消費者として自立する 1章 消費行動を考える 2章経済的に自立する 2 ライフステージと経済生活	・これから長く生きる人生を見通し、自分らしいライフスタイルを描きながら、人生の時間軸にそって生活設計をたてることができる。	○	○		○
【第4回の評価方法】 定期テスト、授業プリント等の提出物、授業への取り組み状況を総合的に判断して評価する。								
【学習方法】 ①授業時間を大切に、授業で使用したプリント類は毎時間きちんと整理して、学習した項目を確認しよう。 ②作品・課題・レポート等の提出物は、自分の学習の到達度を確認しながら、学習成果につながるよう、主体的に取り組んでいこう。 ③実験・実習などの体験的学習は、時間毎の目標に到達できるよう積極的に取り組んでいこう。 ④授業で学んだ知識と技術を自分の生活全般にわたって生かし、実践力と問題解決能力を養っていこう。 ⑤近年、大学入試での小論文試験において、さまざまな学部で生活体験に基づいた分析と考察が求められる家庭教育内容に関する問題が出題されています。日頃から授業に主体的に取り組む、新聞や文献を読んでいくことにより、幅広く教養を高めていこう。								